

チャペル週報

No.27

2014 .1.6. ~ 1.19.

その光は、まことの光で、
世に来てすべての人を照らすのである。
(ヨハネによる福音書1章9節)



中央講堂ロビー ステンドグラス

関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

1月6日(火) 神 公現日礼拝 加納 和寛 (神学部助教)
文 Andreas Rusterholz (宗教主事)
社 公現日(エビファニー)チャペル 打樋 啓史 (宗教主事)
法 栗林 輝夫 (宗教主事)
経 学期末を迎えて 舟木 讓 (宗教主事)
商 寺地 孝之 (商学部長)
国 学生活動報告「ドイツ国際平和村での日々」佐竹 優輝 (国際学部3年)
聖和 日浦 直美 (教育学部長)
総 岸本 夏子 (総合政策学部4年)

1月7日(水) 阪神淡路大震災20周年記念 上ヶ原キャンパス合同チャペル
神 田 健次 (神学部教授) 於: 西宮上ヶ原ランパス記念礼拝堂
聖和 田 淵 結 (教育学部宗教主事)
理 ALL讚美歌プログラム(2)
総 村 瀬 義史 (宗教主事)

1月8日(木) 神 土井 健司 (神学部長)
文 Andreas Rusterholz (宗教主事)
社 学年度末にあたって 荻野 昌弘 (社会学部長)
法 栗林 輝夫 (宗教主事)
経 「経済と倫理②」上村 敏之 (経済学部教授)
商 山本 俊正 (宗教主事)
国 English Chapel Eun Ja Lee (宣教師)
聖和 「キリスト教保育Ⅱ」のお話づくりから 井坂 和香(保2) 佐山 明日香(保2)
総 村 瀬 義史 (宗教主事)

1月9日(金) 院 Jeffrey Mensendiek (宗教センター宗教主事)
神 「震災を覚えて」礼拝⑤ 神学部メガホンプロジェクト
文 English Chapel Andreas Rusterholz (宗教主事)
経 卒業生を覚えて 利光 強 (経済学部長)
人 室田 保夫 (人間福祉学部長)
聖和 教育学部で学んで 花岡 南 (教育学部4年) 本郷 加奈 (教育学部4年)
理 ALL讚美歌プログラム(3)

1月15日(木) 聖和 震災を覚えてーテゼの歌をうたいながら 打樋 啓史 (社会学部宗教主事)

1月16日(金) 聖和 音楽の喜び 丸尾 喜久子 (聖和短期大学教授)

1月19日(月) 聖和 新しい歩みを始める 広渡 純子 (聖和短期大学長)

◇ランパス早天祈祷会 毎金曜日 8:20～8:40 ランパス記念礼拝堂 (上ヶ原)
1月9日(金) 震災復興支援に取り組む学生のために 永井美端紀 (ヒューマンサービスセンター共働プラットホーム代表)

君たちはどう生きるか：震災20年を迎えて

岡 本 仁 宏

あの震災から20年である。もう20年もたったのか、と感ずるのは、体験したものの共通した感覚ではないだろうか。

震災で、死者6,434人が現世からいなくなった。上ヶ原のある西宮市で、1,146人を数える。当時、私は、同じこの町で1000の方が亡くなった時、私は同じように生きていてよいのか、という問いが頭から離れなかった。しばしば、生き残った者は、逝ったものから問われ、見られているという意識が残る。サバイバーズギルトという言葉があるが、生き残った罪とは考えないにしても、逝ったものの生に対する責務があってもよいのではないかと、とも思う。同じ町で1000人が死んだのに、自分は同じであってよいのだろうか、もし全く同じであれば、自分を含めて生きているものの生の意味というのは何なのだろうか。隣人の死という事実の後では、残された者の生は「その」前と同じであってはいけなはずだ、と感じたのである。

そして、20年たった。

人間は忘れられなければ生きていけないと聞いたことがある。確かに、辛すぎる体験からの脱出には、「時間薬」とやらが必要で、ある程度は人間の偉大な「忘れる」という能力が重要だ。記憶は減衰し、去っていく。色はあせ、輪郭はぼやけていく。それでいいし、そうでなければいけないのだろう。また、今の学生たちは、「震災後」世代である。もちろん、生まれていても記憶はないだろう。楽しい時間を過ごすことに食欲であっていい。

当然それでいい。忘れられることが、救いでもある。

しかし、隣人を失ったという記憶がある世代の一人としては、逝ったものに関わられている、見られている、という意識は、持ち続けてよいのかもしれない。「君たちはどう生きるか」という本があった。1937年に出されたものだが、戦争で逝ったものに見られ問いかけられていたからこそその問いとしても読み継がれてきたと言ってよいのではなからうか。

今は、「君たちはどう生きるか」という問いは、はやらないのかもしれない。あの時破壊された、線路も道路も高速道路も、家も街も復興し、あの破壊を思わせるものは、何もない。しかし、震災20年という区切りにあって、再度問いかけられてもいように、私は思う。そう問うてくる主体のことを、思うとともに。

(法学部教授)

●阪神・淡路大震災20周年記念上ヶ原キャンパス合同チャペル

メッセージ：神田健次（神学部教授）
と き：1月7日（水）10:35～11:05
ところ：ランパス記念礼拝堂（西宮上ヶ原キャンパス）

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アブロースタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを実施しています。（17:50～18:20 1405教室）賛美歌や聖書に基づくメッセージ等を通して心穏やかなひとときを過ごしてみませんか。聖書と讃美歌はご用意しておりますので、初めての方でも安心してご参加いただけます。どうぞお気軽にお集まりください。

1月8日（木）「阪神淡路大震災から20年を迎えて」 舟木 譲（大学宗教主事）
1月15日（木）「年度末を迎えて」 山本俊正（院長補佐）

●夕べの祈り at ランパス～テゼの音楽とともに～

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごす夕べの祈りのひととき。どなたでもご参加ください。

第3回 1月8日（木）18:30～20:00
ところ：ランパス記念礼拝堂（上ヶ原）
主 催：夕べの祈り準備会（学生有志）
協 力：関西学院宗教活動委員会

●チャペル・オルガニスト卒業演奏会

各学部チャペルをはじめ各種式典などでオルガン奏楽を務めるチャペル・オルガニストか本年度9名が関西学院大学を巣立ちます。それぞれの学生時代の思い出を胸に、これまでのレッスンと練習そしてチャペルでの経験すべてをこの日の演奏に託します。どうぞご来場いただき、学生時代最後の演奏に拍手をお願いいたします。

と き：3月7日（土）14:00～
ところ：ランパス記念礼拝堂（西宮上ヶ原キャンパス）

●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員（学生証または身分証明書必要）であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会（JOC S）切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としておりますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

●盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。

●今号が本年度「チャペル週報」の最終号です

2015年度は4月6日（月）号からの発行となります。新年度のチャペルや宗教センター、宗教活動委員会、吉岡記念館主催の催し物などのご案内をしております。また瞑想欄では、教職員の方々によるメッセージやエッセイを掲載しますのでご期待ください。